

# 「札幌市下水道ビジョン(2026～2034)(案)」に対する意見の概要と 札幌市の考え方について

## 1 意見募集の実施概要

### (1) 意見募集の概要

札幌市では、下水道を取り巻く事業環境の変化や役割の多様化に対応し、社会経済活動を支える必要不可欠なライフラインである下水道を未来へ引き継いでいくため、「札幌市下水道ビジョン(2026～2034)」(計画期間：令和8(2026)～令和16(2034)年度)の案を作成し、より良い計画にするため、市民のみなさんのご意見を募集しました。お寄せいただいたご意見と、そのご意見に対する札幌市の考え方を公表いたします。

なお、ご意見は趣旨を損なわない範囲で取りまとめ、要約して示しておりますことをご了承ください。

### (2) 意見募集期間

令和7年(2025年)12月24日(水)～令和8年(2026年)1月23日(金)

### (3) 意見募集方法

市公式ホームページのご意見入力フォーム、郵送、FAX、電子メール、持参

### (4) 資料の配布・閲覧場所

下水道河川局庁舎3階 下水道河川局事業推進部下水道計画課  
市役所本庁舎2階 市政刊行物コーナー  
各区役所 総務企画課  
各区まちづくりセンター  
札幌市下水道科学館  
市公式ホームページ

2026年(令和8年)3月発行 札幌市下水道河川局事業推進部下水道計画課 〒062-8570 札幌市豊平区豊平6条3丁目2番1号 電話 011-818-3441 FAX 011-812-5203	
市政等資料番号	02-L02-25-2718

## 2 パブリックコメントにおける意見の内訳等

### (1) 意見提出者数・意見数

意見提出者数	7人
意見数	11件

### (2) 意見提出者の年代の内訳

19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
0人	0人	1人	0人	2人	3人	1人	7人

### (3) 意見提出者の提出方法の内訳

意見フォーム	郵送	FAX	電子メール	持参	合計
6人	0人	1人	0人	0人	7人

### (4) 意見の内訳

意見内容	件数
「1 はじめに」に関するご意見	1件
「2 札幌市の下水道のあゆみと整備状況」に関するご意見	0件
「3 ビジョン2030・プラン2025の取組結果」に関するご意見	0件
「4 現状と課題」に関するご意見	3件
「5 計画体系」に関するご意見	0件
「6 施策と取組内容」に関するご意見	7件
「7 財政収支計画」に関するご意見	0件
「8 進捗管理」に関するご意見	0件
その他のご意見	0件

### 3 意見に基づく変更点

市民の皆様からいただいたご意見をもとに、パブリックコメント時に公表した計画（案）を次のとおり変更します。

#### (1) 「4 現状と課題」に関する変更点

意見の概要	変更点
<p>「4-4 札幌市下水道事業の現状と課題（1）下水道施設の老朽化対策」について、施設の老朽化起因による道路陥没事故が全国各地で発生し、札幌市でも緊急調査を実施したかと思うが、対策が盛り込まれていないのではないか。</p>	<p>全国特別重点調査で判明した大口径管路の対策については、「施策1 1-①管路施設の改築・再構築」（計画案 p38）に記載のとおり、調査結果を踏まえて必要な対策を進めてまいります。</p> <p>また、ご意見を踏まえ、「施策2 2-①管路施設の維持管理」（計画案 p40）に、以下の取組内容を追記します。</p> <p><b>【変更前】</b> ○本管の状態を詳細に把握するため、本管起因の事故時における影響や布設からの経過年数を踏まえた優先順位に基づき、年間約 210km の詳細調査（テレビカメラ調査や潜行目視調査など）を実施します。</p> <p><b>【変更後】</b> ◎本管の状態を詳細に把握するため、（略）、年間約 210km の詳細調査（テレビカメラ調査や潜行目視調査など）を実施します。また、<u>全国特別重点調査の結果なども踏まえ、損傷リスクの高い区間を的確に把握します。その上で、点検や調査の優先順位を設定し、効率的な維持管理を推進します。</u></p>

#### (2) 「6 施策と取組内容」に関する変更点

意見の概要	変更点
<p>「施策3 災害への対応力強化」において、大雨時のマンホール蓋の飛散防止対策も重要と考える。</p>	<p>ご意見を踏まえ、以下のページの記述を修正します。</p> <p><b>4 現状と課題（2）自然災害への対応 ①浸水対策（計画案 p27）</b></p> <p><b>【変更前】</b> （記載なし）</p> <p><b>【変更後】</b> ・また、大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散リスクの高い箇所から優先的に蓋の交換などの対策を進めました。</p> <p><b>6 施策と取組内容 3-①総合的な浸水対策（計画案 p44）</b></p> <p><b>【変更前】</b> （記載なし）</p> <p><b>【変更後】</b> ■大雨時におけるマンホール蓋の飛散対策 大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散を防ぐため、引き続き蓋の交換などを進め安全性の向上に努めます。</p>

#### 4 意見の概要及び当該意見に対する札幌市の考え方

パブリックコメントに寄せられたご意見の概要と札幌市の考え方は以下のとおりです。

なお、お寄せいただいたご意見は、その趣旨を損なわない範囲で取りまとめ、要約して「意見の概要」欄に示しておりますことをご了承ください。

##### (1) 「1 はじめに」に関するご意見

意見の概要	札幌市の考え方
<p>下水道河川局であることを踏まえ、下水道のみを対象としたビジョンとするのではなく、下水道河川ビジョンとすべきと考える。</p>	<p>本ビジョンは、市民生活を支える下水道を未来へ引き継ぐため、市民や企業など多様な主体と目指すべき方向性を共有するとともに、公営企業である下水道事業としての中長期的な事業計画や財政収支計画を示すことを目的としています。加えて、本ビジョンは、国が公営企業に策定を求める「経営戦略」としての位置づけも兼ねています。</p> <p>このことから、本ビジョンは「下水道ビジョン」として下水道事業に特化した内容としています。</p> <p>なお、浸水対策などの取組については、計画の名称にかかわらず、下水道と河川が連携しながら進めてまいります。</p>

(2) 「4 現状と課題」に関するご意見

意見の概要	札幌市の考え方
<p>「4-4 札幌市下水道事業の現状と課題 (1) 下水道施設の老朽化対策」について、施設の老朽化起因による道路陥没事故が全国各地で発生し、札幌市でも緊急調査を実施したかと思うが、対策が盛り込まれていないのではないかと。</p> <p>【P3の再掲】</p>	<p>全国特別重点調査で判明した大口径管路の対策については、「施策1 1-①管路施設の改築・再構築」(計画案p38)に記載のとおり、調査結果を踏まえて必要な対策を進めてまいります。</p> <p>また、ご意見を踏まえ、「施策2 2-①管路施設の維持管理」(計画案p40)に、以下の取組内容を追記します。</p> <p><b>【変更前】</b></p> <p>○本管の状態を詳細に把握するため、本管起因の事故時における影響や布設からの経過年数を踏まえた優先順位に基づき、年間約210kmの詳細調査(テレビカメラ調査や潜行目視調査など)を実施します。</p> <p><b>【変更後】</b></p> <p>◎本管の状態を詳細に把握するため、(略)、年間約210kmの詳細調査(テレビカメラ調査や潜行目視調査など)を実施します。<u>また、全国特別重点調査の結果なども踏まえ、損傷リスクの高い区間を的確に把握します。その上で、点検や調査の優先順位を設定し、効率的な維持管理を推進します。</u></p>
<p>「4-4 札幌市下水道事業の現状と課題 (4) 持続可能な経営環境の確立」において、東西下水管理センターでは、冬期間は積雪の影響により下水道管路の維持管理業務が減少することが考えられる。一方、現在各区の土木センターで行っている河川維持管理業務については、土木センター自体が冬期間に除雪業務で繁忙期となる現状があるため、高度な河川パトロール体制を維持することが難しいのではないかと。そのため、東西下水管理センターの職員が河川維持管理業務に従事するのが望ましいと考える。</p> <p>【ほか類似意見1件】</p>	<p>河川の維持管理業務については、年間を通して同一部署が行うことで知識やノウハウが蓄積され、より効果的な維持管理ができると考え、土木センターに河川維持管理の人員を配置しております。</p>

(3) 「6 施策と取組内容」に関するご意見

意見の概要	札幌市の考え方
<p>「施策3 災害への対応力強化」において、大雨時のマンホール蓋の飛散防止対策も重要と考える。 【P3の再掲】</p>	<p>ご意見を踏まえ、以下のページの記述を修正します。</p> <p><b>4 現状と課題 (2)自然災害への対応 ①浸水対策 (計画案 p27)</b>  <b>【変更前】</b>            (記載なし)  <b>【変更後】</b>            ・また、大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散リスクの高い箇所から優先的に蓋の交換などの対策を進めました。</p> <p><b>6 施策と取組内容 3-①総合的な浸水対策 (計画案 p44)</b>  <b>【変更前】</b>            (記載なし)  <b>【変更後】</b>  <b>■大雨時におけるマンホール蓋の飛散対策</b>            大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散を防ぐため、引き続き蓋の交換などを進め安全性の向上に努めます。</p>
<p>「施策3 災害への対応力強化」において、流域治水の視点を踏まえるべきと考える。</p>	<p>流域治水との関係については、計画案 p66「河川との連携」において、流域治水を含む多角的な取組として記載しております。</p>
<p>「施策4 脱炭素社会・循環型社会実現に向けた取組強化」の汚泥の肥料利用は、農業を通じた資源循環や販売収入による財源確保にもつながると思うので、取組の推進を期待する。</p>	<p>本市としても、下水汚泥の肥料利用は、農業における資源循環の実現に資する重要な取組であると認識しています。また、下水汚泥の有効利用方法の選択肢が増えることで、汚泥処理の安定化にもつながることから、安全性やポテンシャルを確認した上で、肥料利用について検討を進めてまいります。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
<p>「施策6 経営基盤の強化」において、様々なコスト削減の取組効果をより具体的（事例・数値等）に示すことにより、それを上回る物価高騰等の影響による下水道使用料値上げに対する市民の理解が深まるのではないか。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、下水道使用料改定の周知の際には、コスト削減の具体的な数値等を示すなど、市民理解が深まるよう努めてまいります。</p>
<p>「施策6 経営基盤の強化」において、令和8年に下水道使用料が改定される予定であるが、上げないでほしい。</p>	<p>下水道事業は、皆さまからいただいた下水道使用料をもとに、下水の処理や施設の維持管理等を行っています。しかし、近年の物価高騰等により事業環境は厳しく、下水道施設を維持し、これまで通り下水道を使用いただくためにも、下水道使用料の改定が必要となっております。</p> <p>皆さまには、ご負担をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。</p>
<p>「施策6 経営基盤の強化」のウォーターPPPに関して、民間委託で経費が抑えられるのか疑問である。</p> <p>民間企業は「利益の追求」を第一に考えることから、民営化されたインフラでは、「改ざんや不正」により、設備更新が抑制され、公的な機能の喪失につながった事例などもある。</p> <p>そのため、「技術がないから民間に委託したい」「民間委託により国からの更新費用補助を受けたい」などといった理由で民間企業に頼るのではなく、10年後も100年後も札幌市があり続ける持続可能な体制を構築してほしい。</p>	<p>ウォーターPPPは、従来の「短期、細分化、仕様発注」から「長期、一体、性能発注」とすることにより、事業運営の効率化につながる可能性があると考えられています。</p> <p>先行事例においても、自治体が民間事業者をモニタリングすることで、下水道サービスの質を維持しながら、経費削減や組織体制の効率化を実現しています。</p> <p>これらを踏まえ、将来にわたり安定的な下水道サービスを継続するため、主要な水再生プラザの運転管理を直営体制で維持するなど職員の技術力の確保を図りながら、ウォーターPPPについても調査検討を進め、導入が適切であるかを慎重に判断していく予定です。</p>
<p>「施策6 経営基盤の強化」において、削減可能なコストを十分に検討し、公共ますの設置方法や費用負担の在り方を柔軟に再設計することで、無駄な支出を抑え、結果として事業全体の持続可能性を高めることが考えられる。また、公共ます設置業務の入札制度についても、業務の再編や仕様の見直しといった制度側の工夫を進めていくべきと考える。</p>	<p>いただいたご意見は、本市の下水道事業における公共ますの設置や入札制度に関する貴重なご意見として、今後の事業運営における参考とさせていただきます。</p>